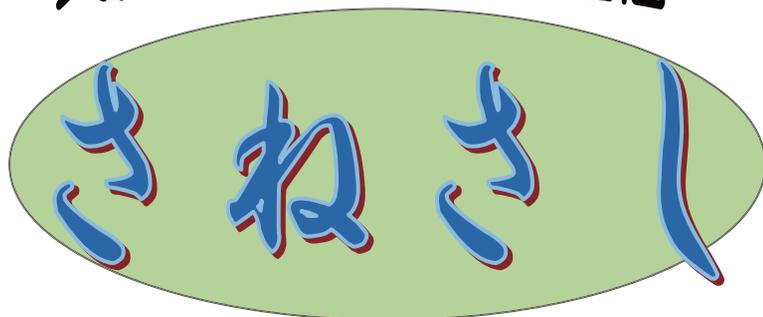




発行

平成29年6月10日

相模原市文化財調査・普及員
広報グループ文化庁指定
文化財愛護
シンボルマーク両手のひらと日本
建築伝統の組物を
イメージしたもの

～「さねさし」とは、相模の枕詞です～

丸崎の神明神社

中央区上溝の亀ヶ池八幡宮の信号から丸崎自治会館に向かって行くと、丸崎児童館前の信号があります。その信号の手前左側に神明神社があります。このお社は、昔から丸崎地域の守り神（氏神様）として豊作を祈願し、無病息災を願ってきた神社です。

創建は不詳ですが、明治9年（1920）に明治政府編纂の上溝村皇国地誌には、「皇太神社雑社 未廿度字丸崎二在り」と記録されています。今から約400年前（江戸時代初期）に2、3の氏族により、信仰が始められたものと考えられています。神明様といって崇拝し、以前は毎年9月1日に祭礼が行なわれていました。

主祭神は、天照大御神で、太陽を神格化した神であり日本神話に登場します。この神を祀る神社は全国各地にありますが、伊勢神宮の内宮（三重県伊勢市）を総本社とする神社です。

近世には、農耕儀礼と結びつき広く信仰を集め、新田開発の際に神明神社を創建することが盛んになりました。神明社、皇太神社、天祖神社などともいい、通称として「お伊勢さん」と呼ばれることもあります。

丸崎自治会では、毎年9月1日前後に祭礼日を設けて、現在も神事（風祭）を継承しています。9月1日は、立春（2月4日か5日）から数えて二百十日に当たる日で、稲が実る時期と台風が来襲する季節が重なるために、昔から農家には、厄日として警戒されていました。風祭は、風害を避け安全を祈願する神事です。祭礼日には、亀ヶ池八幡宮の神職を祭主として祭典を行ない、地域内と近隣住民が日々を安心して暮らせるように、また家内安全・町内安全を祈願します。

本殿は、鳥居の正面の覆屋の中にあり、その建築様式は、神明造りで伊勢神宮正殿の様式です。屋根は、切り妻造りで棟木の上に鯉木（棟の上に横に並べた装飾の短材）と千木（棟の両端に突き出て交差した装飾材）が高くそびえ、屋根と平行な面に入り口がある平入様式が特徴です。

氏神様は、土地の神として、その地に暮らしている人々の人生を支え、守ってくれる神様です。私も来年の初詣には、ちょっと参拝しに行こうかな・・・と思っています。

(文章・撮影 西部班 鹿山)

目次

- ・丸崎の神明神社 …………… P 1
- ・縄文人の植物利用と市指定有形文化財（考古資料） …………… P 2
- ・梅宗寺の文化財
「百観音」を訪ねて …………… P 3
- ・相模原市古民家園「紙芝居
・昔あそび」に挑戦 …………… P 4
- ・文化財調査・普及員の募集 …… P 4



写真1 丸崎の神明神社

縄文人の植物利用と市指定有形文化財（考古資料）

市指定有形文化財「クルミ形土器」

縄文時代中期には、温暖な気候の中、森の恵みであるクリやクルミ、ドングリ類といった木の実が食料として盛んに利用されていたと考えられています。

台地の遺跡を掘っても大量の石器や土器などの遺物は見つかりませんが、植物質の遺物は見つかりません。日本は火山が多く、土壌は酸性で、雨が多く、湿度が高いことから、有機物は分解されてなくなってしまうのです。

平成10年（1998）、縦半分に割ったクルミの殻を模した特殊なクルミ形土器が八瀬川沿いに分布する田名塩田遺跡群B地区及び調整池2地区に跨る中期中葉の環状集落址から出土しました。クルミ形土器の出土例は、他に境川対岸の町田市木曾中学校遺跡と杉並区方南遺跡から発見された2例しかないことから貴重な資料です。

1970年代後半以降、大規模開発にともなって縄文時代の低湿地遺跡の発掘調査事例が急激に増加しました。低湿地の場合水漬けの状態で作られたため、有機物が腐らずによく残っています。クリやクルミ、ドングリ類の木の実、弓や斧の柄、漆器などの木製品、編物、繊維などの遺物です。佐賀県佐賀市東名遺跡、中野区北江古田遺跡、史跡勝坂遺跡公園の西側に隣接する有鹿谷^{あるかやと}でオニグルミの実が見つっています。東京都東村山市下宅部遺跡^{しもやけべ}では、3,000点以上のオニグルミの破片が出土しています。縄文人がオニグルミを採取し、割って食料とし、

殻を水場に捨てたという具体的な活動を確認できるクルミ塚と考えられます。



写真2 クルミ形土器
(相模原市立博物館所蔵・
旧石器ハテナ館で展示)

市指定有形文化財「マメ圧痕土器」

クルミ形土器と一緒に指定されたのがマメ圧痕土器です。

勝坂遺跡保存のための昭和48年（1973）に行われた勝坂遺跡D地区の事前確認調査の際、出土したものです。



写真3 マメ圧痕土器
(相模原市立博物館所蔵)

平成26年（2014）に相模原市立博物館所蔵の勝坂遺跡から出土した縄文時代中期後葉の連弧文土器にマメ科の種子と思われる50を超える圧痕が見つかりました。レプリカ標本を採り、電子顕微鏡で確認したところ、マメの種皮の膜状組織などから多くがツルマメと確認されました。ひとつの土器から、こんなに多くのマメ圧痕が見つかるのは全国的にもきわめて特異な例です。

縄文人が土器製作の際、意図は不明ですが、ダイズの野生種である多数のツルマメを粘土の中に練り込め、焼いたと思われます。

低湿地で有機物遺物が大量に見つかったことにより、考古学と、自然科学分野の学際的研究が始まりました。「レプリカ法」も分析技術の開発によって見つかった方法の一つです。土器を焼く時、混入した植物の種子や昆虫の圧痕が残ることがあります。土器表面の圧痕にシリコン樹脂を入れて固めて、圧痕を形取りしてレプリカを作り、圧痕表面を観察する方法です。

縄文時代中期以降の土器からマメ圧痕が見つかることから、ダイズやアズキの野生種であるツルマメやヤブツルアズキが栽培されていた可能性があります。

(文章 南部班 榎林)

梅宗寺の文化財「百観音」を訪ねて

梅宗寺の「百観音」は市登録有形民俗文化財（平成23年登録）です。緑区上九沢所在の曹洞宗巨福山梅宗寺内の観音堂（写真4）にまつられています。梅宗寺は慶長2年（1597）に根小屋の功雲寺第10世柳山洞絮大和尚により建立されたといわれます。百観音が納められている観音堂は、富士山の宝永噴火の3年後宝永7年（1710）に創建されたもので、その後何度か再建や改修を経ており、現在の観音堂は平成24年（2012）に再建されたものです。

百観音石塔は、山状角柱型浮彫りで西国33番（写真5）、坂東33番（写真6）、秩父34番（写真7）の計百体から構成されています。百観音像の種類としては、①^{しょうかんのん}聖観音46体、②千手観音27体、③十一面観音16体など7種です。どの石塔も堂内に安置されていたせいか破損など無く綺麗で驚きません。

特に目立つのは像全体を白く塗られた西国20番の「白子観音」（写真8）と呼ばれる石塔です。安産の守り本尊として、頂いた蠟燭をお産の最中に灯しておくくと燃え落ちるまでに出産すると伝えられています。因みに、白子観音は1体です。

また、堂内には百観音以外に本尊として天保12年（1841）造立の木造である

しょうかんのん 聖観世音菩薩1体（写真9）も安置されています。総合計101体となります。

百観音石塔の造立目的は、観音信仰対象として先祖供養や安産祈願などと言われます。昭和30年（1955）頃まで地域に観音講中があったようです。現在、毎月観音様の日（18日）に百観音を拝観できますので、一度訪ねられてはいかがでしょうか。

交通機関としては、JR橋本駅南口発田名ターミナル行きの路線バス（神奈川中央）橋57系統に乗り、約8分の上九沢停留所で下車すると北側の徒歩約3分に位置します。近くには旧笹野家・六地藏の徳本念仏塔・北公園などもあります。

（文章・撮影 北部班 駿河）



写真4 観音堂



写真5 西国33番



写真6 坂東33番



写真7 秩父34番



写真8 白子観音



写真9 聖観世音菩薩



図1 梅宗寺観音堂位置

相模原市古民家園「紙芝居・昔あそび」に挑戦

県指定重要文化財（建造物）「旧青柳寺庫裡」は、平成10年（1998）に緑区大島の相模川自然の村公園内の相模原市古民家園に移築復原されました。この古民家園では、毎月第4日曜日に庫裡や園庭を利用して、文化財普及のイベントを実施しており、実行委員会はこちらイベントの企画や運営などを行っております。

講師や、活動団体をお呼びして行うイベントのほか、実行委員会主導で行うイベントもあります。そのひとつに、昨年8月28日に実施した「紙芝居・昔あそび」があります。

紙芝居の演目は「桃太郎」「鶴の恩返し」「千夜一夜物語」でした。紙芝居の小舞台は手作りに挑戦しましたが意外と難しく、市販のものを代用しました。紙芝居の台は木箱を流用しましたが高さ調整が出来なかったり、照明として行灯を2個置きましたが明るさが不足していたりと、次回は改善したいと思います。昔あそびとしては、カルタ取り・コマ回し・お手玉・羽子板など用意しました。特にカルタ取りは子供たちに人気がありました。

（文章・撮影 古民家園事業実行委員会 駿河）



写真10 古民家園の庫裡（東側より）



写真11 昔あそび会場（ヒロマ）



写真12 紙芝居会場（ショイン）

文化財調査・普及員の募集

募集期間 平成29年6月15日（木）～8月15日（火）

文化財調査・普及員は市民と行政のパートナーシップによる文化財の保存と活用を図るために発足したボランティアです。

○活動内容

- ・各地域班での文化財パトロール
- ・教育委員会主催の文化財普及事業にスタッフとして参加（史跡田名向原遺跡公園での解説案内、史跡勝坂遺跡公園での体験学習、古民家園で実施される講演会や鑑賞会の支援など）

○対象

- (1) 郷土の歴史や自然に興味があり、ボランティア活動に取り組む意欲のある方
- (2) 教育委員会が主催する講習会に参加できる方

○登録までの流れ

8月27日（日）～10月7日（土）に実施される講習会（全7回）を受講後、参加意欲のある方を登録させていただきます。

申込方法

はがき、FAX、Eメールのいずれかで、「文化財調査・普及員応募」及び氏名（ふりがな）、住所、電話番号を明記し、8月15日（火）までに文化財保護課へ送付して下さい。応募者へは、後日、講習会の案内を送付します。なお、期間外の応募は無効になりますのでご注意ください。

問い合わせ・申込先

〒252-5277 相模原市中央区中央2-11-15

相模原市教育委員会 文化財保護課

電話：042-769-8371 FAX：042-754-7990

Eメール：bunkazai@city.sagamihara.kanagawa.jp

発行連絡先 相模原市教育委員会 文化財保護課 電話 042-769-8371